

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	社会のよき形成者となるため、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求し、勤労を尊び、郷土を愛し、人間性豊かな、元気はつらつとした『新しい時代を主体的に切り拓く若人』を育成する。
(2) 現状と課題	下北の全域から生徒が集まっており、それぞれの地域性を持ちつつも、勉学や部活動を通じて充実した高校生活を送るため努力する生徒達である。また、広く社会に目を向け、勤労貢献でき、社会に参画する一員として活力ある人材の育成および工業技術者としての資質を備えた人材の育成を目指している。
(3) 重点目標	1 学習指導の充実(確かな学力の育成) 2 生徒指導の充実(豊かな人間性の育成) 3 キャリア教育の充実(自己理解・自己管理能力の育成) 4 開かれた学校づくり(保護者・地域との連携・積極的な情報発信)
(4) 結果の公表	評価項目、結果の内容等をまとめた資料を作成し、PTA総会で補足説明を行い公表する。さらに、本校ホームページでも同様の資料を公開する。

学校整理番号	38
学校名	青森県立むつ工業 高等学校
全日制の課程	
自己評価実施日	令和7年1月27日(月)
学校関係者評価実施日	令和7年2月5日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校評議員	4名
PTA副会長	3名
PTA会長	1名
いじめ防止専門員	1名
計9名	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導	①個々の能力・適性に応じた指導を実践し、自ら学ぶ態度の育成を図りながら深い学びを通して確かな学力を身に付けさせる。 ②タブレット端末を活用し、生徒の進捗状況や苦手分野に応じて個別に学習プランを作成し、適切な教材や課題を提供する。	①各教科・科目において協議会等を開催し、生徒の学びの達成度を詳細に確認・共有し、適切な能力・適性に応じた指導を実践してきた。基礎学力向上と自学自習の習慣を定着させる目的から「スタディサプリ」を導入し、朝学習での取り組ませ学習状況は概ね良好である。	A	①学校での授業研究発表など教員間、生徒たちで情報交換や意見交換を行っており自己評価や課題の改善に積極的に取り組んでいる。 ②PC、タブレットによる教育方法について様々な活用方法があるので積極的な改善が必要と思われる。	①各観点において成績が振るわない生徒に関しては、当該教科に限らず、学年や学科を含む関係者間の連携を図り、継続的かつ適切な支援を行う必要がある。 ②生徒の能力と教材の難易度が必ずしも一致しない事例が見受けられた。個々の生徒に適した学習レベルを提示することが重要である。しかし、膨大な学習コンテンツの中から適切な教材を選定する方法については、今後の課題として検討する必要がある。
2	生徒指導	①登校指導や校内巡回の際に、積極的に挨拶の励行を行う。 ②いじめに関して、生徒が悩みを打ち明けやすい環境を構築し、早期発見および対応に努める。	①挨拶の励行を粘り強く続けたことで挨拶してくるようになり、一人ひとりが自己存在感を感じるようになってきた。併せて遅刻する生徒は全体的に減少している。 ②学期毎にアンケートによりいじめを早期発見することができ対応できた。また、今年度から、いじめ防止専門員から、適切なアドバイスをもらい実践している。	B	①いじめを防止する取り組みについて「あまり達成できていない」のパーセンテージが他の項目より多かったのを踏まえた対策の見通しが必要だと思いました。 ②いじめに対する施策、アンケートを確実に実施し第三者からの指導を受けており評価できる。	①コミュニケーション手段がSNSを中心とする傾向が強まり、不適切な発信によるトラブルが多発している。この状況を踏まえ、生徒に対して適切なコミュニケーションの取り方を指導し、健全な情報発信の在り方について啓発を行うことが必要である。
3	キャリア教育	①進路目標達成のため、四者面談、個人面談により、生徒一人ひとりの適性を見極め、希望進路を実現する。 ②職業観育成と地域企業とのつながりを深めるため、企業見学やインターンシップを実施する。	①Classroomを活用しての指導も効果的で、進路意識の向上と職業観の育成を図っての早期に進路目標を設定する力を身に付けさせる指導ができた。 ②公募によるインターンシップを実施することができた。企業PRを聞くことで、多くの選択肢の中から選ぶことができ、生徒主導型のインターンシップとなり、生徒が主体的に活動する場が増えた。	A	①下北地域における工業高校に対する期待は大きい。生徒たちもそれらについて意識して行動している。今後も、模範となる行動を取っていただきたい。	①地域の方々や働く方々と話をする機会や見学会などを利用し、生徒たちの視線を将来の自分に向けさせたい。 ②インターンシップについては年度初めに打ち合わせを綿密にし、実施までの流れを可視化する。市内の企業との連携も強化し、併せて六ヶ所村にある会社にも案内を出し、生徒の選択肢を増やす予定である。
4	開かれた学校づくり	①工業科における地域企業との協同研究を推進し、その成果について発表会等を設け、本校の取り組みを披露する。 ②学校公開・学校説明会により本校教育活動を周知する。 ③広報やHPの活用による情報発信を行う。	①課題研究プロジェクトチームを発足。地域や各企業等との新たな連携強化に向け基盤づくりを行った。また、生徒実践発表会により学校関係者、地元企業に活動報告を行った。	B	①体育祭などもドームでの行事となり、地域との関わりは減って行くと思う。 ②公開授業や地域の企業とのインターンシップなどの活動は十分に評価できる。今後もこれらの展開を期待します。 ③ホームページの更新について、企業でも求人の際に重点を置いている事項である。学校もぜひ楽しいホームページを作成し、情報発信を積極的に行ってほしい	①評価委員会より「研究発表会はもっと大きな行事として、保護者や学校関係者などに解放してもよいと思った」との意見をいただいております。来年度は、地域の中学校、高校とも連携し発表会を行うことで連携をはかっていく計画である。

(11) 総括	生徒の状況を的確に把握するとともに、保護者や地域の皆様からの期待に応えるべく、学校目標に基づいた教育活動を全教職員が共通認識のもと推進していく。保護者会やアンケート調査により収集したご意見を教育活動へ反映させ、より良い学校づくりに向けて継続的に取り組んでいく。下北地域における工業高等学校として、地域の主要産業および企業との連携を一層強化し、地域社会のご期待に応えていく。今年度より開始した学科を超えたプロジェクトチーム形式の学習を展開し、生徒同士が技術を共有しながら、ものづくりの達成感を得る機会を増やすことを目指していく。
---------	---